

事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和 5年 2月 28日

公表: 令和 5年 3月 20日

事業所名 ジーニアスKIDS植田

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	0	十分なスペースはあるがワンフロアのため、活動やクールダウンの際はパーティションを使ったり空間を分けて行っている。	
	2	職員の配置数は適切である	2	5	安全性確保の為、人員不足の場合は他事業所に応援を依頼している。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がい特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7	0	来所してからの流れが分かりやすい空間配置となっている。発達状態に合わせた空間配置に適宜変更している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7	0		
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7	0	疑問に感じたところはタレで共有し意見を出し合い、改善に向けて全員で試行錯誤して取り組んでいる。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	0	毎年行っている。集計しまとめ、ミーティングにて共通理解し、改善点を話し合っている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	1	ホームページにて公開している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	2	第三者評価はおこなっていない。	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	0	それぞれの目的にあった会社の研修に参加している。	外部の研修も参加していきたい。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7	0	送迎時や家庭支援で悩みや課題を情報共有している。	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	0		
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6	1	家庭内の状況と親御様の意向、本児の気持ちに合わせて、主に本児の支援内容を具体的に作成している。	利用者に合わせて必要であれば、地域支援の観点からの課題を考慮して作成したい。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6	1	共通理解の上、本児に合った活動内容や、集団生活を提供している。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	1	主に担当が作成するが、隔たりが出ないように利用者に合わせて変更したり意見を聞いたり出し合っている。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	0	一年周期で行事を考え、活動内容は曜日固定にならないようにしている。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	6	1		
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	3	出勤時間が異なるため朝礼が出来ない日もあるが、毎日の夕礼時に書くノートを朝来たら確認するようにしている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	1	毎日夕礼をして情報共有し、話し合える時間を設けている。	

関係機関や保護者との連携	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	1	毎日のタレでノートに記録し、個別にファイリングして、日々工夫している支援内容や反応を時系列で閲覧できるようにしている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5	2	最低でも半年に一回親御様と面談して見直している。緊急性がある場合や親御様からの申し出があった場合は、サービス担当者会議を開き都度変更している。	
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	2	所長が主に参加し、現場が人員過多の場合は勉強も兼ねて一般職員も参加させてもらっている。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4	3	困ったときに相談員と意見を出し合ったり、連携をとっている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	3	4	医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を受け入れしていない。	医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を受け入れる際には、かかりつけ医院と情報共有し、会社の訪問看護事業所に協力を仰いで連携をとる。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	3	4	医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を受け入れしていない。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	3	保育園や幼稚園にお迎えに行く際に担任の先生とお話したり、広報誌を渡して情報共有している。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	4	親御様からお願いがあった際には、小学校や特別支援学校(小学部)へまとめてお伝えしている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	3		
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	7	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流するイベントは設けてない。	今はできていない。 コロナが終息したら行えるよう努めていきたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	6	1		
保護者への説明責任等	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	0	送迎時にその日の様子を伝え、今後の課題等話している。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	6	1	保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援は行っていない。	親子で参加できるイベントを組み込んでいきたい。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	0	契約時に説明し了承を得ている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7	0		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	0	送迎時や家庭支援で悩みや課題を情報共有している。ラインで	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	4	現在は年に一回開催している。	参加家庭が増やせるように宣伝していきたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7	0	送迎時や面談時はもちろん、ラインを活用して気軽に相談できるしくみになっている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	0	2か月に広報誌を一度発行している。活動内容や写真、イベントの情報、会社の情報が細かく分かるようになっている。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	6	1	書庫は施設しており、施設にもセコムが設定されている。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	0	発語が難しい利用者には絵カードや写真で分かりやすくしたり、気持ちを汲み取り言語化している。	

	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	7		
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6	1	天災や感染症の対応については契約時にお伝えしている。防災訓練は月に一度利用者で行っている。	災害についてのマニュアルもお伝えする。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	1	防災グッズの見直しと避難訓練は定期的に行っている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6	1	契約時に服薬、てんかん発作について情報共有している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	1	診断書は指定していない。契約時に聞き、配食とおやつは対応食を提供している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	0	事例集に記入してタレにて共有している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	1	虐待防止委員会の研修に参加したり、他事業所参加のケースフォーミュレーション等で共有している。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6	1	契約時に説明するとともに、個別支援計画に記載して了承を得ている。	安全確保の為やむを得ず身体拘束してしまった場合は、今まで同様、送迎時に経緯を丁寧に伝える。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。